



東京国際ブックフェア'96

東京国際ブックフェア'96が2月8日より11日までの4日間、幕張メッセで開催されました。主催は東京国際ブックフェア実行委員会です。この委員会は日本書籍出版協会、日本雑誌協会、日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会、出版文化国際交流会、読書推進運動協議会、そして洋書輸入協会の7団体で構成されています。初日の開会式には三笠の宮殿下を中心に、関係団体代表および在日大使、公使52名によるテープカットが行なわれました。洋書輸入協会からはこのテープカットに、海老原理事長にご出席いただきました。

今回のフェアは国内462社、海外から224社、合計686社が出展しました。アジア・太平洋出版連合(APDA)のフォーラムが開かれる関係で、この地域の出版社の参加が多くなっています。残念ながら当協会のメンバーとお取引のある欧米の出版社の参加が今年も非常に少なく淋しい限りでした。

来年は新しくオープンする東京・有明の東京ビックサイトで1月23日(木)から26日(日)に開催を予定されています。この会場へは新橋から「ゆりかもめ」に乗って20分という便利な場所になります。主催者とこのブックフェアの企画、運営にあたっている リード エグジビション ジャパン(株)ではこの機会にブック フェアを魅力あるものにしたいと計画しています。特に欧米の主要出版社の参加を積極的に呼びかけることにしています。

さて、今回のフェアには四つの特別ゾーンが設けられました。① 学術書、② 児童書、③ マルチメディア、④ 編集プロダクション、とジャンルごとに特色ある展示となっていました。特にマルチメディア ゾーンでは今話題のインターネット関連商品をはじめ、電子ブック、CD-ROM、パソコンなどが高い関心を呼んでいました。

併催イベントとして、出版業界の動向についてのセミナーや「コミック卸売コーナー」、「第30回造本装幀コンクール展」、「著者によるサイン会」などがありました。洋書輸入協会としては、他の主催団体やリード社の強い要望を受け、昨年に引き続き「洋書バーゲン コーナー」を事業委員会で開催しました。このバーゲン コーナーに参加、協力いただいたのは、絵本の家、エンデルレ、ゲーテ書房、ハーバーコリンズ、紀伊國屋、丸善、日本出版貿易、東光堂、タトル、洋版、雄松堂(ABC順)の11社でした。各社サービス精神旺盛で、種類を豊富に揃え、格安の値段での提供となりました。何しろ本の好きな人達の集まりだけに、連日大盛況で、このブックフェアの一番人気といった様相でした。四日間で約1000万円の売上となりました。200円や300円の商品も多くありましたので売場は大忙しでした。このコーナーへの商品は、本の裏に自社のプライス スティッカーを貼り、一冊ごとに自社の指定された記号と値段をつけたスリップを入れなければなりません。

目 次

東京国際ブックフェア'96	1	総代理店ご案内	3	洋書輸入通関統計(前編)	5
理事会報告	3	うちの会社	4	出版文化史追憶(8)	7
海外ニュース	3	計 報	4	広 告	8

終わった後に一万枚を越えるこの売上スリップを分類し、11社の売上金の分配を計算することになります。また今回の日程は、10日、11日が土曜、日曜にあたり、月曜が振替え休日となっており、その間銀行が休みのため、売上金は自宅に持ち返って保管しなければなりません。

釣銭や包装紙の準備などもあり、事業委員会の方々、特に松浦さん（丸善）、幸若さん（紀伊國屋）、村山さん（洋版）には大変お世話になりました。改めて厚くお礼申し上げます。来年はバーゲンばかりでなく、洋書の素晴らしい新刊をこのブックフェアで紹介し、販売出来るようにしたいものと思っております。

（洋版 大倉 光弘）



写真提供 事業委員会



JBIA DIRECTORY 1996

— 4 月中出来予定 —

（洋書輸入協会ダイレクトリー1996年版）

25.7×18.2cm	355頁	会員価格	2,500円（送料共）
		一般価格	4,500円（ " ）
		海外価格	8,000円（航空便送料共）

理事会報告

2月23日(金)

(一) 1月分収支報告

2月15日(木)開催の総務委員会で審議の1月分収支について総務委員長の報告を承認した。

(二) 委員会報告

イ. 総務委員会

a. 会員資格変更の推薦文に対する賛助会員のリアクションはその後2、3あったが、現在のところ正式な申込みは1社。

b. 協会事務所の賃貸契約更新の交渉が行われ結果として、家主より家賃と共益費を合わせ年間で従来より168,000円下げる回答を得た。

ロ. 事業委員会

2月8日(木)～11日(日)開催の東京国際ブックフェア'96は国内462社、海外224社合計686社の参加を得て、種々批判もあったが一応成功裏に終了した。同時開催の洋書バーゲンセールは昨年以上に盛況で売上も対前120～130%を記録した模様。

(三) 選挙管理委員委嘱の件

先に、委員長を(株)トッパンの関野社長に委嘱したが本日(23日)下記の方々に委員を委嘱することにした。

小林圭五(富士洋書)、村山新吾(ゲート書房)、成瀬功(太陽洋書)、岡見 純(フランス図書)、田中康夫(海外出版貿易)、鶴 三郎(東亜ブック)、上原鉄男(友隣社)、山縣彌栄子(内外交易)、神田俊二(事務局)。(敬称略・アルファベット順)

海外ニュース

英国'96年出版賞の話題

今年2月、ロンドンで開催された英国の出版社および作家と作品を対象とした各賞の受賞者発表会で、Transworld社がPublisher of the Year賞を受賞した。同社はNational Book Awardsが7年前に始まって以来、これで3度目の受賞となる。

しかし、今回の受賞発表会の主役は、Author of the Year, Illustrated Book of the Year, Children's Book of the Year, Distributor of the Yearの4つの賞に輝いたランダムハウス社といえるだろう。

6つの賞の候補にあがっていたハーパーコリンズ社は唯一、Malcolm Edwards氏がEditor of the Year賞を受賞したにとどまった。この他、ペンギンは、児童書の編集で知られていたLiz Attenborough氏がEditor賞候補となっていたものの、昨夏同氏がペンギンを退職したために受賞対象からはずれ、Expert Marketing Campaign賞のみ獲得、マクミラン社は3つの賞の候補のうちLife Time Achievement賞のみをW. Smith氏が受賞した。

独立書店に与えられるIndependent Bookseller of the Year賞には、ロンドンのメルルボーン・ハイ・ストリートにあるDaunt Books for Travellersが選ば

れ、Chain Bookseller of the Year賞にはWaterstonesがライバルのBlackwellsやDillonsやBooks Etcを押さえて選ばれた。

ロンドンのヒルトンホテルで開催された受賞式には、今年も多くの出版関係者が出席したが、その中には近所にある自分の書店から自転車によって来た出席者もいれば、サルマン・ラシュディ氏のようにパトカーに護衛されてやって来た人もいて、多彩な顔ぶれだったそうである。

—The Bookseller 1996. 2. 16号より抜粋—

総代理店ご案内

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

Tel.(03) 3291-4541

Fax.(03) 3293-3484

Cork University Press (Ireland) 総代理店

Northwestern University Press (U.S.A)

総代理店

Mansell Publishing Ltd. (U.K.) 指定代理店

ストッキスト業務停止のお知らせ

Lexington Books (U.S.A.)

小社は1995年末をもって上記出版社の取扱いを停止いたしましたのでお知らせいたします。

うちの会社

有限会社 E. メクレンブルグ商会

なが年、「ドイツ書専門の店」として営業を続けてきた日比谷を撤収し、中野の小さな事務所に移ってから、はや4年の歳月が過ぎ去った。店を閉めなければならなかった原因としては、外資系企業の進出にともない主要な顧客の幾つかを失ったこと、仕入先の売掛回収の厳しさが増し資金難に陥ったこと、急激に変貌するマーケットへの対応が遅れたこと、等々が考えられる。そのどれをとっても、中小（零細）企業が抱えて避けることの出来なかった問題で、また今後とも尾をひく事柄ではないかと思われる。

昔なじみの顧客からの注文のみを頼りにして、なんとかやって行ければよいが、世の中それほど甘くはない。創業（1950）間もない頃から一緒に仕事をしてきたふたりの同僚の献身を得て、崖っぷちに立ちながら

何とか転落をまぬかれようとしているのが現状である。

社名は創業者であるドイツ人（もと名取洋之助夫人）の名からくるものであるが、彼女も1979年に世を去り、その縁故でつながっていた顧客もつぎつぎに姿を消してゆくなかで、新しい客層の獲得に苦慮せねばならなかった。折りしも需要は冷え込む一方の時代。先ゆきを考えると眠れない夜も続いたし、現状も似たりよったりのものである。

この欄でこんなに愚痴をこぼすものは今までなかったかもしれない。でも見栄を張っても仕方がないし、ありのままを申し上げ、程度の差はあっても同じような問題を抱えている中小業者のかたがたのご参考になれば…と思っている。（鈴木和夫）

計 報

ユサコ株式会社 取締役会長 山川隆雄氏は1月23日逝去された。享年88歳。

社葬による告別式は1月27日港区高輪の高野山東京別院に於いて新田満夫氏（雄松堂書店社長）を葬儀委員長として厳粛にとり行われ協会員や内外の出版人が多数参列された。

山川氏は昭和16年に同業会が海外出版物輸入同業会として正式に発足した当時より山川商会として入会され、その後ユー・エス・エシアテックカンパニー、現在のユサコ（株）と社名を変更されたが、30数年にわたって当協会理事として業界発展のため尽力された。

計 報

株式会社三善社長、大久保利康氏は3月11日胃癌のため逝去された。享年79歳。

告別式は社葬をもって神式により護国寺桂昌殿にて3月18日厳粛にとり行われた。

明治の元勳大久保利通氏を祖父とされる名家のご出身でもあり、洋書の輸入の他にモーター、ペーパーコースター等も広くとり扱われる関係で、協会員以上に各業界から多数の方々が参列されご靈前に捧げた。

1995（平成7）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（前編）

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

大蔵省関税局から、1995（平成7）年1～12月の日本貿易統計が発表されたので、その中の洋書関係の数字をピックアップして表示すると共に、若干の分析を試みたい。

新設のもの。新聞ではない。

（表3）書籍・雑誌の合計額

（単位 百万円）

品 目	'94.1～12月 価 額	'95.1～12月 価 額	前年比	構成比
書 籍	23,924	24,520	102	58.5
新聞・雑誌	16,023	17,418	109	41.5
計	39,947	41,938	105	100.0

1. 1995年1～12月、書籍・雑誌の輸入通関統計表

（表1）書籍

（単位 百万円）

品 目	'94.1～12月 価 額	'95.1～12月 価 額	前年比	構成比
単一シートのもの	132	91	69	0.4
辞典及び事典	392	498	127	2.0
その他のもの	23,400	23,931	102	97.6
計	23,924	24,520	102	100.0

（注1） 書籍とは、「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない）」を対象とする。

（注2） 単一シートものは、折り畳んであるかないかを問わない。この分類は'88より新設のもの。

（注3） 辞典及び事典には、シリーズの形式で発行するものを含む。この分類は'88より新設のもの。

（注4） 「その他のもの」が、いわゆる一般の書籍である。

（表2）新聞・雑誌その他の定期刊行物

（単位 百万円）

品 目	'91.1～12月 価 額	'95.1～12月 価 額	前年比	構成比
一週に4回以上発行するもの	106	192	181	1.1
新聞	22	15	68	0.1
雑誌その他の定期刊行物	15,895	17,211	108	98.8
計	16,023	17,418	109	100.0

（注1） 新聞、雑誌その他の定期刊行物は、挿絵を有する可有しないか、または広告を含んでいるかないかを問わない。

（注2） 「一週に4回以上発行するものは」は、'88より

（注1） 価格はCIF又はC&Fである。

（注2） 小額貨物の20万円以下は含まれていない。

（注3） 書籍は、現品入荷月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

（注4） 雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約1年遅れで計上されている。

2. 最近10年間の推移一覧

（表4）1986～'95年、書籍・新聞・雑誌輸入通関統計推移表（指数は1980<昭和55>年を100としたもの）

（単位 百万円）

暦年	書籍			新聞・雑誌（注）			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1986	18,174	83	79	9,837	89	88	28,011	85	82
'87	21,461	118	93	12,339	125	110	33,800	121	99
'88	23,143	108	101	13,591	110	121	36,734	109	107
'89	27,181	117	118	14,083	104	125	41,264	112	120
'90	33,274	122	145	16,966	120	151	50,240	122	147
'91	27,124	82	118	14,399	85	128	41,523	83	121
'92	26,597	98	116	19,360	134	172	45,957	111	134
'93	24,109	91	105	15,928	82	144	40,037	87	118
'94	23,924	99	104	16,023	101	145	39,947	100	117
'95	24,520	102	107	17,418	109	158	41,938	105	123

（注） 1988（昭和63）年から、雑誌に新聞が含まれたため、'87年以前の数字は、すべて新聞含みの数字に訂正してある。

3. 分 析

(1) 400億円台を回復

書籍・新聞・雑誌の輸入合計額は、前年比5%アップ、約20億円増のため、400億円台を回復した。統計方法が変更された1972（昭和47）年以来では3番目に多いが、最高の1990年と比較すれば83億円も少ない（表4参照）。

(2) 加重平均で前年比3.4%の円高

1995年の主要6カ国の為替相場平均値を、各国からの年間輸入額の構成比によって加重平均の上集計し、更に洋書輸入が比較的が多いその他の国19カ国の為替相場の動向から、主要6カ国以外の国全部を推計したものを加えた書籍・雑誌の円高率は、3.4%であった（表6参照）。

(3) 1991年から5年連続の円高、円高値下げ分はカバーされていない。

円高といえば、'89に2.9%の円安、'90に13.4%の円安を経た後は、'91の7.6%、'92の4.6%、'93の17%、'94の6.6%と円高が連続し、'95につながっている。この5年間の円高は通算34%である。

一方'95年の書籍、雑誌合計の輸入高は、5年連続円高の始まる前の'90年と比較すると、5年間で16.5%の減となっている。このことは、5年間で34%の円高であるのに16.5%しか輸入が減っていないのであるから、理論上はその差の17.5%分輸入が増えていることになる。しかし年々3%宛原価値上がりがあると見ると、5年間で15.9%、年2%で10.4%であるから、5年間円高で値下げを繰り返して洋書の値段が安くなった分、余計に売れたのは僅か2~6%程度しかなく、値下げ分は全くカバーされていないことを示している。

(4) 書籍、雑誌のうち円高の被害は一方的に書籍に皺寄せされ、書籍のシェアが低下している。

円高の続いた5年間のうち、書籍の'90年比'95年は、26%減、雑誌は3%増で、書籍対雑誌の比率は、66:34から58:42に変化している。

4. 主要6カ国の1995年1~12月、書籍、新聞・雑誌の国別輸入通関統計表

（表5）主要6カ国及びその他の国の集計

（注1）書籍は単一シート、辞・事典、その他を含む。

新聞・雑誌は、週4回以上発行するものを含む。

（注2）ドイツは1991年より東西ドイツ合併の数字を用いている。

（単位 百万円）

国名	書籍			新聞・雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
米	7,735	94	32	6,295	101	36	14,030	97	33
英	5,859	100	24	4,529	136	26	10,388	113	25
独	2,514	88	10	1,318	102	8	3,832	92	9
仏	861	90	3	548	97	3	1,409	93	3
オランダ	1,140	141	5	1,809	95	10	2,949	109	7
スイス	540	127	2	544	99	3	1,084	112	3
小 計	18,649	97	76	15,043	108	86	33,692	102	80
その他の国	5,871	123	24	2,375	110	14	8,246	119	20
計	24,520	102	100	17,418	109	100	41,938	105	100

〔分析〕

(1) 辞・事典は、英国がシェア62%で、米国の10%を大きく上廻っている。

(2) 単一シートは、香港からの輸入が38%のシェアを占めている。多分日本からの印刷の注文品であろう。

(3) 主要6カ国よりも、その他の国のシェアがジリジリと増えている。

5. 主要6カ国の為替相場の動向と書籍・雑誌全体の円高率の算定

（表6）1995年1~12月、主要6カ国の年間平均為替相場の前年比と、その他の国の前年比の推定、及び年間洋書輸入額構成比に応ずる各国相場前年比の加重平均

通貨	'94. 年間 平均為替相場	'95. 年間 平均為替相場	前年比	'95. 年間洋書輸入 額構成比	'95. 年間円高、 円安の加重平均
円	円	円		%	
U.S \$	103.22	95.01	8.0%の円高	33	2.6%の円高
Stg. £	160.48	152.36	5.1%の "	25	1.3%の "
D.M.	63.79	66.32	4.0%の円安	9	0.4%の円安
F.FR.	18.85	19.27	2.2%の "	3	0.1%の "
D.GL.	56.86	59.19	4.1%の "	7	0.3%の "
S.FR.	75.78	80.59	6.4%の "	3	0.2%の "
小計				80	差引 2.9%の円高
その他の国			推定 2.3%の円高	20	0.5%の "
総 計				100	3.4%の円高

（注1）円高、円安率の計算は次の式によった。

$$\frac{\text{前年同期} - \text{当年}}{\text{前年同期}} \times 100$$

（注2）その他の国19カ国のうち、円高は12カ国。I.RP 9%、Can.\$ と L.IT の8.3%などは幅が大きい。

（後編へ続く）

英語辞書の歴史—ジョンソン以前—〔3〕

丸善・本の図書館 鈴木 陽二

◆難解語辞書の系譜

17世紀における英語辞書はおおむね難解語辞書であった。今月はコードリー以後17世紀に現れて英語辞書編纂史に残る幾つかの辞書を紹介することにしたいが、これらはいずれも難解語の系統に属する辞書であった。

コードリーの辞書が刊行されておよそ10年ほどたった1616年に、医者であったプロカー (John Bulloker) によって“An English Expositor”が編纂された。この辞書は、彼の専門の医学用語のみならず論理学、哲学、法律、天文学、紋章学などに関する学術用語を広く収録するとともに、それらの用語の学問分野を初めて表示した。コードリーやトマスの辞典を大いに剽窃活用して廃語まで収録し、コードリーの辞書の2倍に上る5,000語の難解語辞典であった。コードリーの辞書が比較的短命に終わったのに比べて、1世紀以上も増刷を重ねた息の長い辞書で、最後の刷りは1731年の第14版であった。

次いで1623年には“English Dictionary”という語がタイトルに初めて使用された辞書“The English Dictionarie: or An Interpreter of Hard English Words”がコッカラム (Henry Cockeram) によって編纂された。これも難解語辞書で、難解な借入語に平易な英語で解説を加えたばかりでなく、反対に平易な語に対する難解語を記述した部分、および人名・神名・悪魔・怪獣・鳥や獣・木や川などの語彙を解説した部分と3部の編成で成り立ち、百科事典的な性格を併せ持った辞書であった。彼はこの辞書を編纂するにあたってプロカーの辞書を徹底的に盗用し、さらにコードリーやトマスなどそれまでに現れた辞書を利用して制作した。そして、始めて完全な辞書を完成したと豪語したということであるが、しかし、それまで一度も英語で使われたことがないと思われる語まで多量に収録したことで、手厳しい批判を受けた。この辞書が現れた1623年といえば、シェイクスピアの最初の戯曲全集であった“First Folio”が刊行された年でもあった。

1656年には語源記述を行って出典も明記した初めての英語辞書が、ロンドンの弁護士ブラント (T. Blount) によって上梓された。“Glossographia: or a Dic-

tionary Interpreting All Such Hard Words”という700ページの大きな事典であったが、“Glossographia”の表題通り難解語事典であった。ブラントの辞書はトマスの辞書とホリオークの『語源辞書』(いずれも羅英辞書) から多くを借用し英語化されたラテン語を掲載した。ラテン語以外にもヘブライ語やトルコ語からの借入語も収録して、語彙を豊富にする新語の導入に積極的な姿勢を示し、その正当性を主張したことが評価されている。

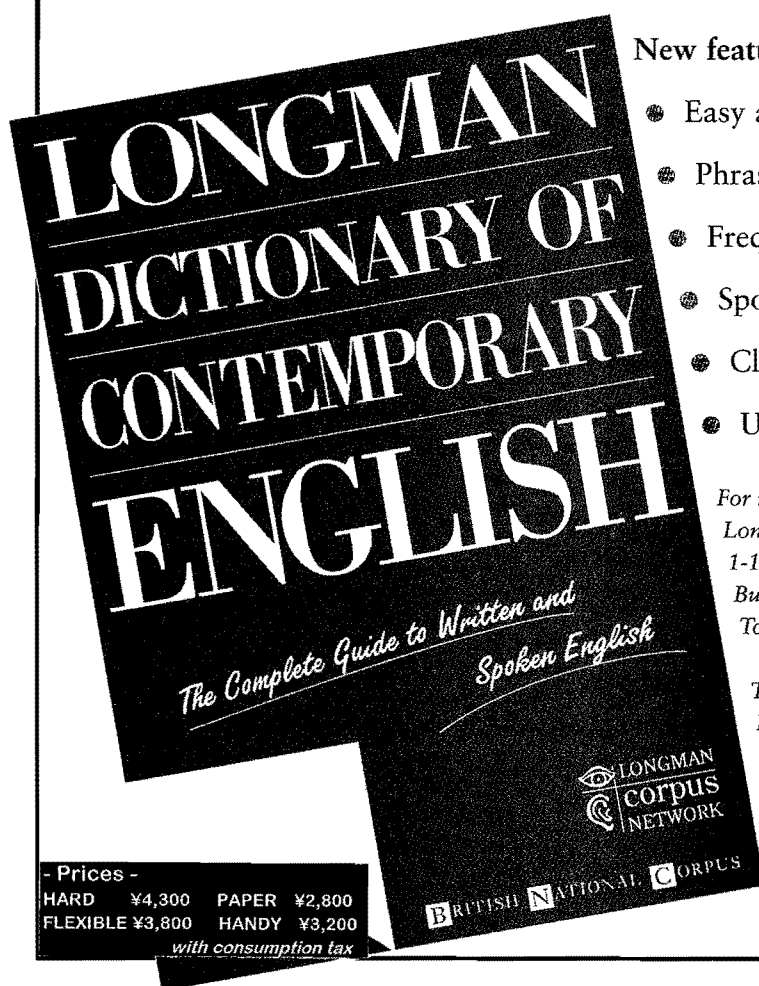
次いで、1658年にはミルトンの甥のフィリップス (E. Phillips) が“The New World of English Words: Or, a General Dictionary”を上梓した。詩人ミルトンの集めた資料を利用したといわれているこの辞書の新機軸は、多くの著名な専門家にコントリビューターとして協力を得たという形を採ったことである。しかし、実際にどのくらい専門家に参加したのか、その真偽のほどは疑わしいともいわれているが、しかし、この手法はそれまでの辞書編纂の上でまったく見られなかった新しい発想であった。内容としては、ブラントの辞書のほとんどを借用して、41の分野の学術用語や、さらに固有名詞、歴史・神話などに関する項目を加えた百科事典的なもので、1万1千語を収録した辞書であった。

このほかに17世紀における重要な辞書としては、語源を中心に編纂して最初の本格的な英語語源辞書となり、後年ジョンソンに影響を与えたといわれているスティーブン・スキナーの『英語語源辞書』(1671) やエライシャ・コールズ『英語辞典』(1676) が刊行された。後者は2万5千語という見出し語の中にチョーサーやガワーなどから選定した何千という廃語を盛り込んだり、隠語や方言を収録して新分野を開拓したものである。

コードリーから始まった17世紀は、ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語、トルコ語などの難解な外来語を解説する「難解語辞典」の流れであった。しかし、そこにはコードリーに見られたように無教養な人々を対象にした難解語の簡単な解説というレベルから、教育の普及に伴って一層広範囲に対象を求めた辞書へと変貌して行く姿がある。つまり、一般英語を掲載する英語辞典が出現する萌芽を見ることができるのである。

There's never been a dictionary like it.

Give your students complete understanding
and complete confidence with the new
Longman Dictionary of Contemporary English.



New features include:

- Easy access "signposts"
- Phrases and collocations
- Frequency information
- Spoken English
- Clear definitions
- Usage notes

For more information contact:-

Longman Japan K.K.

1-13-19 Sekiguchi

Bunkyo-ku

Tokyo 112

Tel: 03-3266-0404

Fax: 03-3266-0326



LONGMAN

- Prices -

HARD	¥4,300	PAPER	¥2,800
FLEXIBLE	¥3,800	HANDY	¥3,200

with consumption tax

1996年3月 通巻第346号 洋書輸入協会

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

編集者 神田 俊二

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社